

最上川 30



■支部会報「最上川」第 30 号の発刊に寄せて 東北工業大学後援会 会長 丹野 喜昭

東北工業大学後援会山形県支部の保護者の皆様、後援会会長の丹野喜昭と申します。

この度、山形県支部会報「最上川」第 30 号の発刊の記念としてご挨拶を申し上げさせていただきます。日頃より後援会の活動に対し、温かいご理解と多大なるご支援・ご協力を賜り心から感謝申し上げます。

1985 年の発足以来、後援会は『大学の興隆発展への寄与と会員相互の連携』を二つの柱とし、本学に学ぶ学生たちのより充実した学修環境とキャンパスライフの実現を目指して活動を続けております。

山形県支部におかれましては、加藤支部長をはじめ幹事の方々の多大な協力をいただき、保護者懇談会、大学見学会、地域別懇談会、年 3 回の幹事会など保護者の目線に立ち活発な議論のもと各行事を行っています事を感謝しております。

また後援会の事業概要につきましては、先に総会でご承認いただきました内容や、詳しい事業報告をホームページに紹介しておりますので是非ご覧ください。東北工業大学後援会として、これからも学生が有意義な生活を送れるよう、保護者様の不安が解消されるよう真摯に耳を傾けてまいりますので、よろしくお願い申し上げます。



■ご挨拶 東北工業大学後援会 山形県支部 支部長 加藤 元康

後援会会員の皆様におかれましては、益々ご健勝のこととお喜び申し上げます。

東北工業大学後援会山形県支部長の加藤と申します。本学後援会は、在学生の学びと成長を支えるため、保護者・大学・地域が一体となって活動する組織です。学業面だけでなく、課外活動や学生生活全般においても、安心して充実した時間を過ごせるよう、さまざまな支援を行ってまいります。近年、社会や教育環境は大きく変化しています。その中で、学生一人ひとりが自らの夢や目標に向かって挑戦できる環境を整えることが、私たち後援会の大切な役割だと考えております。

昨年開催しました後援会山形県支部主催の令和 7 年度父母懇談会では、新たな取り組みとして、工大同窓会山形県支部と連携し県内の企業紹介を実施し、特に就職活動を控えた 3 年生のご子女をお持ちの保護者より大変良かったとの感想をいただきました。今後も後援会は同窓会と連携し車の両輪となって共に大学を支えていきたいと考えております。

さて、保護者の皆さん、今ご心配されていることは何でしょうか。けして一人で悩まないでいただきたいと思います。私も数年前までは子供を工大に通わせている一人の親でした。やはり当時は、生活面や学業面などでさまざま悩みました。振り返ってみると勇気を出して後援会活動などに足を運び、大学後援会事務局職員の方や県支部幹事の方々より適切なアドバイスがあったからこそ悩みを払拭できたと今でも思っております。後援会では、父母交流会などさまざまな取り組みを行っておりますので、お忙しい中ではありますが是非ご参加いただきご相談ください。私は今、後援会という組織で幹事の皆さんとともにアドバイスされる側からアドバイスをする側にシフトチェンジし、少しでも保護者の皆さんのお役に立てるよう努力しているところです。今後とも大学との連携を深めながら、保護者の皆さまと共に、学生たちの成長を温かく見守り力強く後押ししてまいりますので、どうぞ引き続き、ご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

最後になりますが、皆さまのご健康とご多幸、そして学生たちの輝かしい未来を心より祈念いたしまして、挨拶とさせていただきます。



■令和 7(2025)年度の父母懇談会「山形会場」の様子

開催日：令和 7 年 6 月 7 日（土）	山形県支部総会・父母懇談会	
	会場：ヤマコーホール	山形県支部参加者：19 組 21 名

【当日のタイムテーブル】

- 11：30 受付開始（参加者に昼食お弁当を配布）
 12：00 県内企業紹介（昼食をとりながら）※同窓会との連携企画
 12：30 支部総会
 12：50 父母懇談会（学長からの大学近況報告等）
 13：10 茶話会形式の交流会（お茶菓子と飲み物をご用意しました）
 ▶学科毎にグループに分かれて交流しました。
 13：40 個人面談（面談の待ち時間中も茶話会を継続して行いました）
 15：00 終了

【参加者人数】（学科・学年別）

学科・課程	学年				計	
	1年	2年	3年	4年		
電気電子工学	1	2			3	16%
情報通信工学		3		1	4	21%
都市工学	1		3		4	21%
環境応用工学		1	1		2	11%
建築		1	1		2	11%
産業デザイン					0	
生活デザイン	1		1	1	3	16%
経営デザイン	1				1	5%
計	4	7	6	2	19	100%
	21%	37%	32%	11%	100%	

父母懇談会場全体の様子



父母同士の交流会（茶話会）の様子



大学教員とご父母との「個別面談」の様子



父母懇談会 参加者アンケート回答（自由記述）

- 4年生の保護者さんより、いろんな情報を聞けました。
- 親同士で話す機会はなかなか無いのでとても良かったです。
- 色々な意見を聞いて、とてもためになりました。
- 大学で面談があるのは驚きましたが、いろんな話を聞いたので良かったです。
- 先生からご意見が直接聞いて本当に良かったです。
- 初めての参加でしたがとてもためになり、楽しかったです。

父母懇談会は、令和 8 年度より「保護者懇談会」に名称が変わります。

次回の保護者懇談会（山形会場）は

令和 8(2026)年 6 月 14 日（日）『山形テルサ・アプローズ』で開催予定です。

詳細は 4 ～ 5 月頃に郵送でご案内しますので、ぜひご参加下さい！

今回は私の地元、山形県酒田市にある酒田港についてご紹介いたします。酒田港は最上川の河口に発達した港で、古くから日本海沿岸や内陸河川交通の要衝として多くの豪商が軒を並べ、中でも南部藩の定宿として日本海貿易に活躍した二木家、西鶴の「日本永代蔵」に北国一の米の買入れ問屋と記述された鐙屋、日本一の地主として知られた本間家は酒田港の象徴として全国にその名は知られています。寛文 12 年（1672）河村瑞賢による西廻り航路の開拓で酒田港は一層繁盛し、江戸中期には 97 軒を数える廻船問屋があり、嘉永・安政の頃は酒田港全盛の時代でありました。



しかし、河口港として発達した酒田港は最上川下流部における乱流が甚だしく、また大洪水による流出土砂のため、港口の水深維持が困難な状況に陥り、明治には帆船から汽船時代になり、船舶が大型化するにつれて港の利用度は低下し衰微はまぬがれませんでした。明治 17 年政府は最上川航路の改良を目的とした治水工事を起こし、河口港としての悪条件を克服しました。近代設備の整った酒田港は大型外国船の入港が目立ち昭和 45 年には北港地区の建設に着手、昭和 59 年 6 月には 50,000D/W 級第一船の入港、平成 4 年には中国黒龍江省との新航路「東方水上シルクロード」の開設、また、平成 7 年には韓国・釜山港との定期コンテナ航路が開設され、平成 12 年 7 月からはガントリークレーンやコンテナフレートステーション(CFS)上屋を備えた国際ターミナルが供用を開始するなど環日本海時代に向けた設備の充実が図られました。



近年は、平成 15 年 4 月に国土交通省の「総合静脈物流拠点港（リサイクルポート）」に指定され、北港地区を中心にリサイクル関連企業の立地が進み、リサイクル貨物の取扱量も順調に伸びています。平成 17 年 7 月には国土交通省が創設した「みなとオアシス」制度に本港地区が登録され「みなとオアシス酒田」として賑わいのあるまちづくりの一翼を担うと共に、平成 18 年 7 月に酒田港港湾計画を改訂し、平成 22 年 8 月には国の「重点港湾」、平成 23 年 11 月に「リサイクル貨物機能に係る日本海側拠点港」、平成 29 年に「ポート・オブ・ザ・イヤー2016」にそれぞれ選定されました。

酒田港周辺では風力発電や太陽光発電、バイオマス発電施設の建設・稼働も続いており、再生可能エネルギーの集積が続いております。また、港湾機能についても国際コンテナターミナルの岸壁延伸など、貨物量の増大に対応した整備が進み、今後の更なる発展が期待される酒田港であります。



近年ではクルーズ船の誘致による観光振興等の取組が進み、クルーズ船の寄港数が年々増加しています。クルーズ船入港時にはセレモニーが催され、沢山の方々が港に来場されて乗客の方へのおもてなしに積極的に参加されております。



その、おもてなしのイベントブースでは県産品の展示や物販・飲食店などの出店もあり、来場された方々と乗組員や乗客の方々との新たな出会いの場ともなっており、交流拡大に向けた大きな役割を担う港としても、今後の活躍は期待できると思います。クルーズ船以外にも自衛艦や海上保安庁の巡視船の入港があり、入港時にセレモニーが行われ、体験乗船なども行われております。

「みなとオアシス酒田」の本港地区には、定期船とびしまフェリーターミナル、海の博物館：酒田海洋センターに東ふ頭交流施設 SAKATANTO、みなと市場、海鮮市場などが一体となって賑わいの空間を形成しており、日々、沢山の観光客が訪れて、早朝から賑わっております。



■令和 7(2025)年度「地区別懇談会（庄内地区）」の様子

開催日：令和 7 年 11 月 15 日（土）	山形県支部 地区別懇談会（令和 7 年度は庄内地区で開催）	
	会場：東京第一ホテル鶴岡	参加者：6 組 6 名＋役員

山形県支部では、6 月の山形市で開催する父母懇談会のほかに、毎年 11 月に地区別懇談会も行っており、令和 7 年度は「庄内地区」で開催しました。

令和 8 年度は「最上地区」で開催する予定ですので、お近くの方はぜひご参加ください。



■令和 7(2025)年度 山形県出身学生の『在籍状況』（2025 年 4 月 1 日現在）

【出身地域別】

（単位:人）

地域	学年					地域計
	1 年	2 年	3 年	4 年	計	
山形市	13	22	20	13	68	144
上山市		2		5	7	
天童市	5	2	3	1	11	
尾花沢市	2	1	2	2	7	
東根市	5	3	5	2	15	
村山市			2	1	3	
北村山郡				1	1	
寒河江市	5	2	4	3	14	
西村山郡	2	1	1	3	7	
東村山郡	3	4	2	2	11	
新庄市	4	2	3	1	10	16
最上郡	1	2	1	2	6	
酒田市	4	6	7	3	20	48
鶴岡市	4	5	12	4	25	
東田川郡	1		1	1	3	
飽海郡					0	
長井市		1	4	1	6	36
南陽市	3	1	1	3	8	
米沢市	1	4	4	2	11	
西置賜郡	1	1		6	8	
東置賜郡			2	1	3	
計	54	59	74	57	244	244

【学科別】

（単位:人）

学科・課程	学年				計
	1 年	2 年	3 年	4 年	
電気電子工学	9	10	13	11	43
情報通信工学	17	12	15	12	56
都市工学	3	6	4	7	20
環境応用工学	1	4	3	4	12
建築	7	12	17	11	47
産業デザイン	5	8	10	3	26
生活デザイン	5	2	6	5	18
経営デザイン	7	5	6	4	22
計	54	59	74	57	244

■昨年度卒業生（山形出身者）の『進路状況』

学部	山形県出身学生（2025年3月卒）の就職先企業		
工学部	天童市	陽光ビルサービス株式会社	株式会社橋本店
	東日本旅客鉄道株式会社	株式会社 S J C	岩田地崎建設株式会社
	東京エレクトロン株式会社	株式会社ミライト・ワン	株式会社フジキン
	株式会社きんでん	株式会社ひばりシステム	東北アースシステムズ株式会社
	テクノ・マインド株式会社	日新製菓株式会社	日本連続端子株式会社
	株式会社ドコモCS東北	東北エプソン株式会社	株式会社アルトナー
	株式会社かわでん	株式会社テクノプロ テクノプロ・IT社	ミツイ株式会社
	山形カンオ株式会社	株式会社HEXEL Works	株式会社ツリーベル
	東北電化工業株式会社	つばさエンタテインメントグループ	株式会社朝日工業社
	株式会社富士通エフサス		
建築学部	東日本旅客鉄道株式会社	ヘキサコア株式会社	ダイダシ株式会社
	大和ハウス工業株式会社	株式会社ビルド	タマホーム株式会社
	株式会社安藤・間	株式会社ウンノハウス	建築工業株式会社
	東亜建設工業株式会社	株式会社オノヤ	西武建設株式会社
ライフデザイン学部	株式会社アドバンス・ソフト	株式会社テクノプロ・コンストラクション	中央出版ホールディングス株式会社
	山形ダイハツ販売株式会社		

※山形出身の 2025 年 3 月卒業生 52 名の進路内訳：就職 48 名、大学院進学 4 名

■令和 7(2025)年度 後援会山形県支部役員（令和 8 年 1 月 1 日現在・加入順・敬称略）

支部長	加藤 元 康	（川西町）	幹 事	土 田 裕	（鶴岡市）
事務局長	斎藤 雅 博	（舟形町）	幹 事	五十嵐 恵	（新庄市）
幹 事	佐々木 健 一	（山形市）	幹 事	増 川 卓 也	（鶴岡市）
幹 事	小 林 雅 史	（山形市）	幹 事	芳 賀 好 治	（寒河江市）
幹 事	五十嵐 志 真	（鶴岡市）	幹 事	目 黒 一 美	（米沢市）

【支部会報に関するお問い合わせ先】

東北工業大学後援会事務局／山形県支部担当：小山内 幸広（東北工業大学 大学企画室長）

〒982-8577 仙台市太白区八木山香澄町 35-1／TEL：022-305-3415／E-mail：y-osanai@tohtech.ac.jp